

Japanese Immersion 11th & 12th Grade Required Poem for Odd Years

ふるさと

(たにかわしゅんたろう)

谷川俊太郎

「ただいま」と戸をあける

そんなおうちがあったっけ

見なれた時計が三時をうつと

かりんとうを 食べたっけ

お父さんとかいう人が

なんだか ぶんぶんしてたっけ

「こんちわ」と戸をあける

そんなおみせが あったっけ

「いつものおくれ」と言いさえすれば

コーヒーがのめたっけ

イエスタデイとかいう歌が

いつでも人気があったっけ

「どうだい」とかたたたく

そんな友達あったっけ

だまって二人で歩いて行くと

夕やけが見えたっけ

にほんかい
日本海とかいう海で

リングをはんぶん半分むいたっけ

忘れたところに思い出す

今ではないいつか

ここではないどこか

君ではないだれか

Japanese Immersion 11th & 12th Grade Alternate Poems

ものがたりしている

にぎりこぶし 村野四郎

悲しい時や 苦しい時
僕は いつも
こぶしを 固く握りしめる
すると、苦しみや 悲しみは
みんな 僕から 逃げてゆく
勉強で 泣きたくなったとき
僕はぐっと
こぶしを 固く握りしめる
すると、本の字が はっきり見えてくる
また、北風が ビュービュー ふいて
僕をいじめる時
ぼくは胸をはり
ぐっと、こぶしを握りしめる
すると 風のやつ
急に道ばたの木へ 逃げ帰り
枝を ガサガサ くやしそうに
ゆすっているんだ

遠い森で 谷間で
公園で
まどのすぐ外で

そのものがたりに
人びとは耳を傾けはするが
とてもいちどきには
聞きとることも
読みとることもできない

けれども大地は
のこらず すっかり聞いてやって
母親のように
いちばん あとで やすむ

『けれども大地は・・・』^{しんかわかずえ}新川和江

秋が

たえまなく 木の葉を降らせて

